

2010年 3月 7日

BLUE THERMAL 2010

日本学生航空連盟

第50回全日本学生「羽布」競技選手権記念大会

大會 機種 開幕式

BLUE THERMAL 50th Memorial 2010

No.2

新規航庫3F写真判定室裏

Office of BLUE THERMAL 2010

今夜の担当
 国貞良介(首都)
 前田洋輔(中央)
 豊川宗市良輔(立命館)
 上河駿一(立命館)

地上の星



大杉英生 日本青年羽布機の会
 大会学生委員長

『まず、急遽大会委員長をやることになったので、心の準備ができなくて大変でした。また、いつ電話がかかるか分からないのでいつも気が抜けません。

仕事中選手たちが上空で楽しそうにサーマリングしている姿を見ると、自分も一緒に飛び出したりします。

一応R/Wにはライセンスを持って行っています(笑)。

まだ競技は始まっていますが、一日が無事に終わるときはほっとします。

新人戦で出会った三年生の活躍を期待しています。来年は一緒に飛べますよ。

銀賞トライ日記の朝、Duo Discusの翼下。提供:国賀選手。

Q1. 日本との違いは?

サーマルのトップは高く、発生する場所の予想がかなり当たりやすい。しかし、日本と違った強いサーマルばかりかと思っていたが、条件が最発する前段階では、日本と似たような条件下での訓練練習もできた。グライダーが広く見られるところでは、特に目立つのが就職活動である。あちこちエントリーを作成する学生の姿が見られ、その数は昨年の大会中よりも多いと感じた。同時に、全体的に書類の提出期日が昨年より早めであると言える。容赦ない就職活動の波は、全国大会会場中の学生をも飲み込む。飛行場がさらも頑張る彼ら彼らも企業に見込まれたものだ。(上河)



Q2. 日本の方が良いと感じた点は?

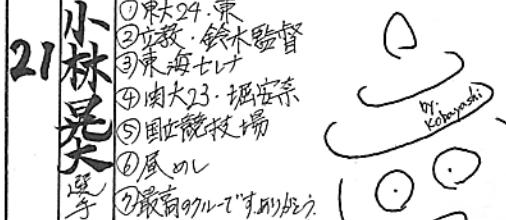
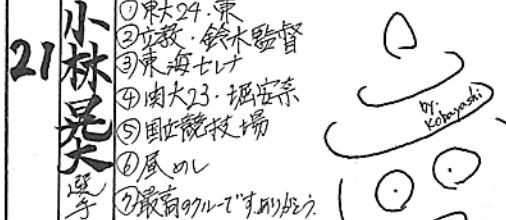
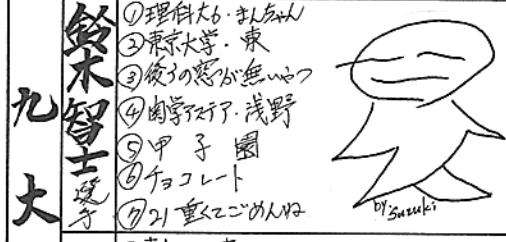
景色に変化がない為、ボジョン確認が難しい。50km、5時間トライなどは好条件なナロマインの方がやりやすい。しかし、より多くの準備が必要な日本でやる方がパイロットとしての成長幅は大きいかもれない。

Q3. 最後にメッセージを。

チャンスがあれば行くべき! 日本では得にくい距離感を経験できる! ただし、ライセンス取得、少なくともATY口に出てからの方が良い。チームフライト(別の機体で上手い人について行く)がとても良い言葉になった。

気になるあの機のドット

- ①他の選手が優勝に集中せずに飛んでいいのは?
- ②他の人で、自分一人のクルーとして迎みたいのは?
- ③飛ぶことを楽しみたい機幹算
- ④気にならぬ選手
- ⑤何を目指して飛んでいいですか?
- ⑥滑走場での運転は?
- ⑦チームルームに一言!



法

政

A

木村大介
 選手

- ①慶應 A. 松居教室
- ②立教 千地若
- ③青山学院
- ④慶應 A. 松居
- ⑤教習センター
- ⑥向食
- ⑦ねん太田! ありがとうございます!

日高野有仁
 選手

- ①法政 太田
- ②立教 千地若
- ③日大トラック
- ④慶應 YS. 飯史
- ⑤老人にならぬ飛行統計学
- ⑥中村さんとの外食
- ⑦ねん太田!! おねね頼みます。

三木原俊介
 選手

- ①慶應・機械工学科
- ②立教 千地若
- ③慶應・江澤のBMW
- ④慶應 YS. 小林
- ⑤健康
- ⑥喫煙
- ⑦ぶっ飛ばすが早くして太田君!!

日本
 大
 学
 A

齊藤
 充
 選手

- ①関西大学 堀選手
- ②慶應・小林(弟)
- ③東海機械車(MT)
- ④東海6の羽布乗り3人衆
- ⑤音速でのエルソクバーサル
- ⑥風呂場での尾白君
- ⑦忙しい中ありがとうございます

中
 村
 健
 太
 郎
 選手

- ①日大 A. まさのり教育
- ②慶應・星野
- ③東京理科大
- ④東北13. 尾白
- ⑤あおいどう
- ⑥太野のアゴ
- ⑦ぶっ飛ばす太郎